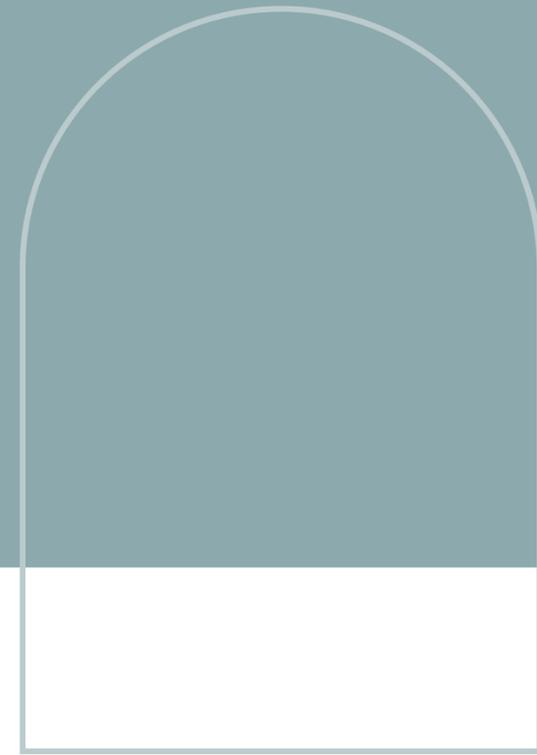


日本プロサッカー選手会 (JPFA)

PLAYER DEVELOPMENT PROGRAM

プレイヤー デベロップメント プログラム



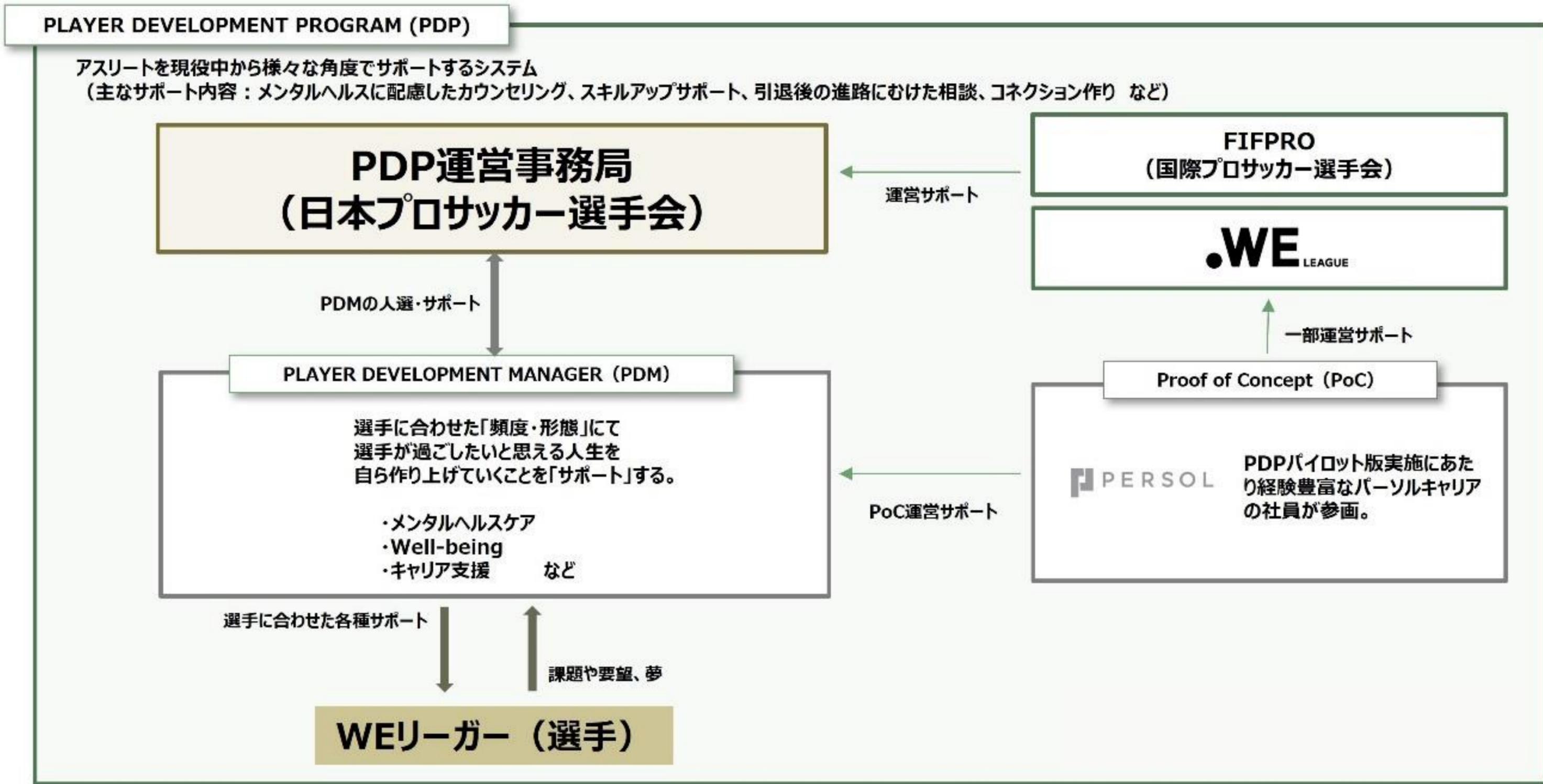
PLAYER DEVELOPMENT PROGRAM とは



PDPは、国際プロサッカー選手会（FIFPRO）が推奨する、アスリートをさまざまな角度でサポートするシステムです。サッカーに限らず、ラグビーなど世界の各競技の選手会がトップレベルの現役選手に提供しているサポートプログラムであり、選手のメンタルヘルスの向上、Well-being、引退後のキャリア支援を目的とした取り組みです。

2022-23シーズンより、JPFA女子支部で試験導入し、4名の選手が参加しました。

体制図



サポート内容



選手の現役中のメンタルヘルスに配慮した
カウンセリングなどのサポート
(プライバシーが完全保証された中での相談など)

選手の現役中のスキルアップサポート
(スキル開発ワークショップなど)



引退後のための相談、
コネクション作りのサポート
(キャリアアドバイスなど)

PLAYER DEVELOPMENTの必要性

ほとんどの選手が経済的・社会的な理由から、引退後、新しいキャリアへ移行していきま
す。その時に備え、サッカー選手のキャリアを通じて得られる多くのリソース（スキル、
人間関係、行動力など）を開発していくことが目的です。

PDMの役割

国際プロサッカー選手会（FIFPRO）が定義するPDMの目的は、
“ピッチの内外を問わず、選手自身が主体的に成長できるようにすることで、
選手の自己啓発とウェルビーイングを促進すること”。

そのために、PDMは、選手を「先導」するのではなく、「選手と共に歩む」ことを念頭
に、種々のサポートを行います。

何かを「教える」のではなく、選手がサッカー以外のやりたいと思える夢、
過ごしたいと思える人生を自ら作り上げていくことを「サポートする」ことが特徴です。



具体的な選手のサポートイメージ

大事な関わり方について

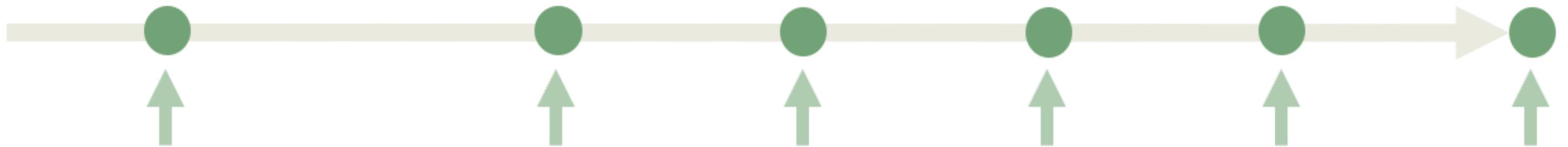
- ✓ 選手に「無理なく」参加してもらう
- ✓ サポートの方法は「個人に合わせて様々」
(個別の面談、オンラインMTG、電話、練習後のカフェなど)
- ✓ プライバシーの完全保証



上記を前提としつつ、選手一人ひとりにPDMの担当者をつけ、選手の要望によって、いつでも、どんなことでも相談できる体制を構築します。

23年11月
プログラム募集開始

24年6月
シーズン終了まで



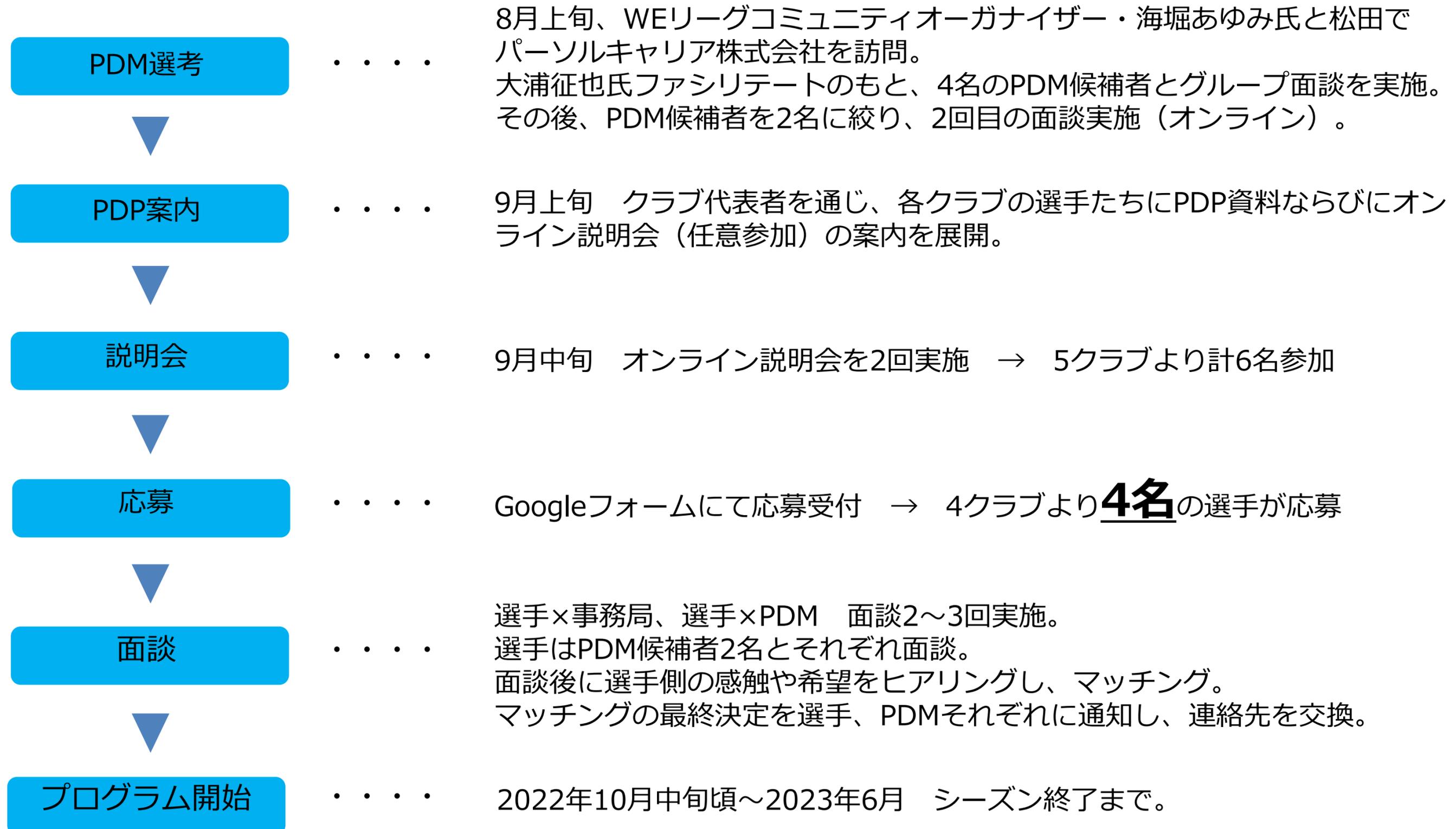
PDM
とのマッチング

※事務局が選手⇄PDMの間に
入り、面談等を踏まえて決定

選手の課題や要望に応じて、
個人に合わせた「頻度・形態」にてサポートを行う

※事務局が定期的にプログラムの内容についてのフォローを行う

プログラム開始までの流れについて



PLAYER DEVELOPMENT MANAGERとは

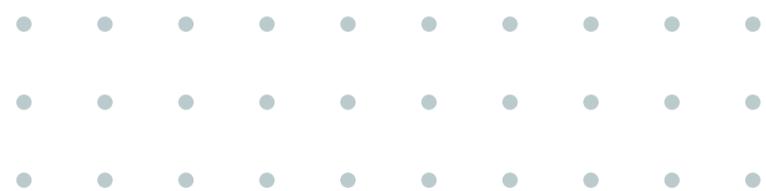
PDMは、現役選手が、引退後も、自分がやりたいと思える夢や過ごしたいと思える人生を、自ら主体的につくり上げていくことを「サポートする」PDPの中心的存在です。選手を「先導」するのではなく、「選手が主体となって共に歩む」形で種々のサポートを行います。

PLAYER DEVELOPMENT MANAGER 2名を選考

(株) パーソルの協力を得て、選手会にて、2名のPlayer Develop Managerを選考

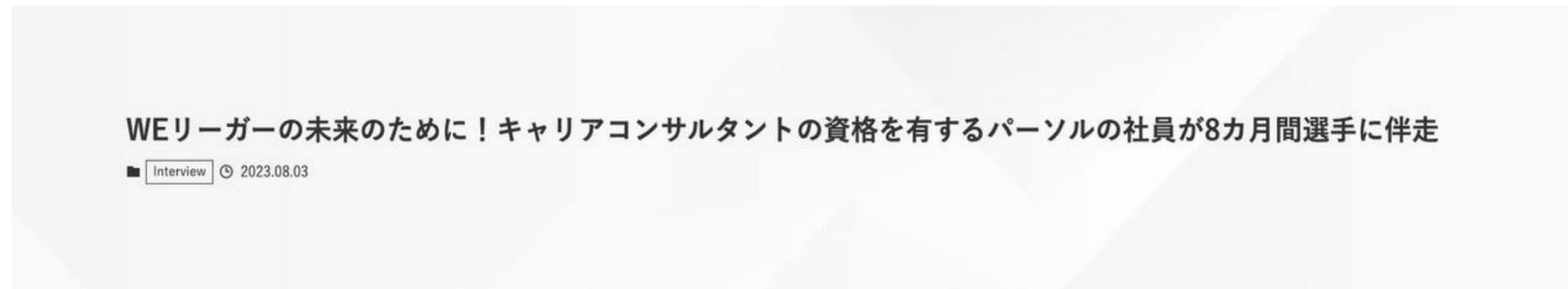
PLAYER 4名が参加

2022-23シーズンは、4名の選手が参加



2022-23シーズン振り返りインタビュー

https://touch.persol-group.co.jp/20230803_15542/



ホーム > Interview >



将来につながるリソースを発見！

—なぜPDPをWEリーグに導入しようと思ったのですか？

松田さん：海外ではさまざまなスポーツの選手会がPDPを取り入れていて、実際にヒアリングをしてとてもいい取り組みだと感じました。PDPをWEリーグに導入し、WEリーガーの現役中から引退後の人生に対してまで、さまざまなサポートができた……、そう思ったんです。今回、PDMの方と対話するプログラムを実施しようと思ったのは、選手が対話を通して自身についての認識を深め、潜在的な想いに気付いたり、思い描く人生の整理をしたりしながら、将来のキャリアや人生をより豊かにするヒントを得てもらえたらという想いからです。今回は、パイロット版で実施期間が約8カ月と短かったのですが、気付きや明確になったことがあればうれしいと思っています。

—石淵選手、水谷選手、いかがでしょうか？気付きや明確になったことはありますか？

石淵選手：今までまったく認識していなかった自分の強みに関する気付きもあったし、今選手として取り組んでいることが、将来どのようなつながっていくか、PDMの松橋さんと対話し、言語化することで明確になりました。

水谷選手：これまでなんとなく感じていた将来への気持ちや確信が変わりました。



水谷 有希選手 (三浦東工高校レスポンドレス)

—どのような気付きがあり、どう明確になったのか、具体的に教えてくださいませんか？

石淵選手：自己理解を深めるため松橋さんと一緒に「クリフトンストレングス」という自分の潜在能力を知るテストに取り組んだのですが、私の一番の強みに「戦略性」が上がってきたんです。「上昇志向」や「行動性」の方が上位になると思ったので驚きました。でも、自分のこれまでの行動を振り返ると、「こうだから、こう」って結びつけて決断していることが多いんですよ。私の内側に隠れていた特性を引き出し、認識させてもらえて、とてもいい気付きになりました。

また、私はここ数年、「どうしてももっとパフォーマンスを上げられるのか」と、人の体の仕組みに興味を持ち、自分の体であれこれ試しています。これは、応用すればデスクワークによる肩こりや首こりの解消などにもなること。自分の体でちゃんと結果がでれば、それを多くの人に伝えることができるし、パーソナルトレーナーなどの道にもつながるんですよね。競技生活以外のことも考えたいという気持ちはあっても、なかなか自分の中で言語化できていなかったことが、松橋さんと対話することで、はっきりしました。

選手引退後のキャリアを「別もの」と考えて、30歳すぎたら一般企業に入ると考えたら、何かしなきゃならない気がするし、それって恐怖ではない。でも、今、本気で取り組んでいることが武器になる。選手として活かしているものが次のステージでも有効に活用できる。すべては同一線上にある。そう、明確になったのは、私にとって、とても意義深いことでした。



石淵 萌実選手 / アルビックス新潟レディース

選手とPDM、お互いに気付きを得る

—今回、選手会に選ばれたPDMは、これまでサッカーと縁がない者でした。なにか理由があったのでしょうか？

松田さん：サッカー選手の周りには多くのサッカー関係者がおり、中には利害関係が絡む方もいます。サッカーとつながりがある方だと、選手が話することに躊躇する、気を遣ってしまうといった可能性があると思い、「サッカーとまったく関係ない」というところから選定することにしました。また、話しやすい雰囲気をお持ちの方というポイントの一つでしたね。それと、選手にPDPに参加することをプレッシャーを感じてほしくなかったので、「プライバシーは完全保証」ということのほか、「嫌だったらいつでも辞めていい」と、あらかじめ話をしていました。



松田 典子さん / 日本プロサッカー選手会 部長

松田：私は、これまでビジネスの世界で仕事を続けてきてスポーツとは縁がなかったのですが、ご縁いただいたとき、不安がゼロだったと言った方がいいです。でも、私が対話することで選手の方々の役に立てるのであれば挑戦したいと思い、参加させていただきました。

—実際、PDMとして参加されていかがでしたか？

松田：とても貴重な経験させてくださいました。私がこれまで仕事で対してきたビジネスパーソンの方々とアスリートの方々とは、普段話していることからして違います。たとえば、ビジネスパーソンのセルフマネジメントで「体の管理」といってせいい健康に気をつけるということぐらい。でも、アスリートは「自分の体を使いこなすこと」に向かっています。日常生活でもそのフォーカスをして過ごしています。ほかにも、私の中でビジネスの世界での捉え方が「当たり前」になっていたな、と感じることもあって……。多くの気付きをもらいましたね。

—石淵選手、水谷選手ともにPDMは松橋で、サッカーという共通点があったわけですが、いかがでしたか？

石淵選手：とても有意義な時間を過ごせました！私が今回、このプログラムに参加した理由は、二つあって、一つは「サッカー選手を辞めたとき自分ができるのを知りたい」ということ。そしてもう一つは、「サッカー以外の世界を知りたい」と思っていたからです。今回、松橋さんのお仕事についても教えていただけて、とても学びが深い8カ月間でした。

水谷選手：サッカーのことは自分で考えているつもりなので、サッカーと直接的に関係ないところで話ができ良かったです。特にコミュニケーションについて、「実際に起きた事実」「自分の考え」「相手の考え」「隠れない点」「隠れない点」など、どういふ順番で話すかと相手に受け取ってもらいやすいか、といった会話の構造の話も聞けて、とてもためになりました。一見サッカーと関係なく見えても、プレーをしているのは「人」ですし、松橋さんもお話もしやすく、私は大満足でした！

将来について特に悩んでいたわけでもないし、セカンドキャリアに関する有益な情報ももらえたいという、嫌だったら辞めればいいし、といった軽い気持ちではじめたのですが、本当に参加して良かったと思っています。

松田：そう言っていた良かったです。私は、人の中には潜在的な能力や可能性があり、それを振り起こして使える形にすることが大事だと考えています。また、その可能性を最大化するには、過去と今と将来をつなげることが鍵になっていくと思っており、今回もそこを大切に選んでいました。皆さんの中に何かが眠っているのか、一緒に宝探しをするよう毎回ワクワクしていましたし、話すほどいろいろな可能性が出てきて本当に良かったです。



松橋 いと / パーソルキャリア 国家資格キャリアコンサルタント、国際コーチング連盟 (ICF) マスター認定コース